

チャレンジリサーチ I プレゼンテーション評価規準

( )組( )班

評価項目		説明	1	2	3
題目	研究題目	研究題目は研究の大まかな内容がわかるようなものであることが望ましい。	題目が研究内容と関係がない。もしくはタイトルが書かれていない。	題目から研究テーマはわかるが、どのような研究を行ったのかわからない。	題目からどのような研究を行ったのかを大まかに理解することができる。
序論	研究背景	初見者が研究テーマを理解できるように必要な情報を紹介する。また、なぜその研究テーマを選んだのかなど、社会や学術の流れを紹介していることが望ましい。	研究内容とは関係のないことが示されている。もしくは研究の背景が示されていない。	研究内容と関係する導入があるが、引用や参考文献が少なく、主観的な内容がほとんどである。	引用・参考文献から、社会や学術の動向について述べられている。
	研究の目的の明記(リサーチエスチョン)	設定されたリサーチエスチョンがどの程度明確に述べられているか、何を明らかにするために行った研究であるかが明確になっているかを評価する。	リサーチエスチョン・研究の目的について示されていない。	リサーチエスチョン・研究の目的について述べられているが、論点が絞り切れていない。	リサーチエスチョン・研究の目的について、論点を絞り、明確に示されている。
	仮説の設定と根拠(研究の内容によっては省略可)	仮説の設定が好ましい研究の場合、先行研究や事例または現状を示すデータをもとに仮説が設定されているかを評価する。	仮説が示されていない。	仮説が示されているが、根拠が示されていない。	仮説が根拠とともに示されている。
研究手法	研究手法	リサーチエスチョンに対する研究手法の妥当性、および研究の再現のため、研究手法が具体的に明記されているかの二点から評価する。	研究手法が示されていない。もしくは研究手法が書かれているが、具体性に欠け、どのような研究を行ったのかわからない。	用いられた手法が再現可能な程度に具体的に述べられているが、用いた研究手法に不備があり、その妥当性が低い。	用いられた手法が再現可能な程度に具体的に述べられており、その研究手法の妥当性もある程度認められる。
結果・考察	結果	得られた結果を分かりやすく(グラフや図・表、もしくは整理された文章に)まとめられているか、またそのデータの説明を適切に行っているかの観点から評価を行う。	結果が示されていない。もしくは、元のデータが羅列してあるのみでまとめられていない。	結果のまとめ方、説明の双方、もしくはどちらかが不十分となっている。	結果がわかりやすい形でまとめられており、結果の説明も十分にされている。
	考察	示された結果に対して新たな「問い」を立て、結果の詳細や原因を探究し、結果への理解を深めることで結論を導いているかの観点から考察への評価を行う。	結果が示されているが、考察がまったく行われていない。	簡単な考察が行われているが、表面的な議論になっている。	結果に対して新たな問いを立て、結果からでは簡単に見出せない情報を示している。
結論・展望	結論	結果・考察をふまえたうえでリサーチエスチョンの答えを述べ、研究のまとめが十分に行われているかを評価する。	結論が示されていない。もしくはリサーチエスチョンに対する明確な答えになっていない。	リサーチエスチョンに対する答えが示されているが、結果・考察から論理の飛躍がある、または根拠が示されていない。	リサーチエスチョンに対する答えが結果・考察から論理的に述べられている。
	展望	研究によって明らかになったことから、社会・学術にどのような貢献が見込まれるかを示し、今回の研究で得られた新たな「問い」から次の研究の提言を行っているかを評価する。	展望や研究成果の意義が述べられていない。	研究成果の意義が述べられているが、具体性に欠けている。また、得られた「問い」が次の研究の展望を示していない。	研究成果の意義が具体的に示されており、新たな「問い」も次の研究につながるものになっている。
引用文献・参考資料	引用文献・参考資料	発表中に出てきた文献がスライド中に書いてあるかどうかを評価する。	引用文献・参考文献がまったく示されていない。	引用文献・参考文献が書かれているが、不足がある。または形式に統一性がない、もしくは間違っている。	形式に従って、引用文献がスライド中に書かれている。また、参考となった文献も示されている。
発表	スライドの体裁	誤字脱字がない/文字のフォントや大きさが適当/グラフの情報に不足がない/表や図にキャプションが正しく書かれている(表は上に、図は下に)/見やすいデザインである	評価する点の多くが不十分である。	評価する点の多くが適正に行われている。	評価する点のすべてが適正に行われている。
	スライドの構成・展開	各スライドが論理的につながっているか、論理の展開が研究内容を理解しやすいようになっているかの二点から評価する。	スライドごとのつながりが弱く、研究内容の理解が十分にできない。	各スライドに論理的なつながりがあり、研究内容をある程度理解することができる。	各スライドの論理的なつながりが明確で、研究内容を十分に理解することができる。
	発表態度	声の大きさが適当/必要以上に原稿を見ていない/表情や声の抑揚が豊か/身振り手振りなどを交えてわかりやすい/機器の操作がスムーズ/発表時間内に収まっている	評価する点の多くが不十分である。	評価する点の多くが適正に行われている。	評価する点のすべてが適正に行われている。
	表現	聴衆に合わせて、理解に必要な情報が述べられている(言葉の定義など)/同じ意味の言葉に対して表現が統一されている/不快な表現や差別的な表現がない	評価する点の多くが不十分である。	評価する点の多くが適正に行われている。	評価する点のすべてが適正に行われている。
	質疑応答	質問の意図を正しくみ取っている/質問に対して適切に答えている(わからないことをごまかさない)/想定質問に対して準備を行っている	評価する点の多くが不十分である。	評価する点の多くが適正に行われている。	評価する点のすべてが適正に行われている。

※『課題研究メソッド』(岡本尚也著 啓林館)付属の評価規準(最終プレゼンテーション)をもとに作成

感想